

行政視察
の報告

疲れた心と体を休め、自分らしさを取りもどす 不登校児童生徒のフリースペース町営「ひよこの家」

表面的な学校復帰を働きかけない

10月22日、厚生文教委員会で、栃木県高根沢町の町営のフリースペース「ひよこの家」を視察研修しました。

ひよこの家は23年も前に開設されました。当時から、学習の場であるよりも、まず不登校の子どもたちが心と体を安心して休め充電し、自分らしい自分を発見するまで待つ、決して学校復帰を働きかけない居場所であることに徹してきた先進的な存在です。

「学校のにおいを消す」ために、教育機関や行政機関から離れた田んぼの中の古民家を、地域の協力で改修。卓球などの運動やイベントができる部屋、囲炉裏や畑もあり、バンド演奏の楽器も置かれていて、自分らしさを取りもどす場にふさわしい佇まいでした。

給食センターでつくられた学校給食をひよこの家まで配達して同じ給食を提供。子どもたちに安心感を届けていました。

人口28,000人の小さな町で、年間2千万円かけて「ひよ



囲炉裏のある、ひよこの家の内部（左）、外観（右）高根沢町資料より

この家」を維持している町の努力に感謝しました。

不登校生徒の割合が10%に達した江南市の中学校では、各校の空き教室を活用したサテライトルームや、市教育支援センターYou・輝で学習、相談支援を行っています。

民間フリースクールに対する運営支援はなく、給食費や交通費の支援もありません。子どもたちに安心して休む権利を保障し、保護者の安心を増やすために、示唆に富んだ有意義な研修でした。（掛布記）



耕作放棄地の再生の 取り組みを学びました

10月16日、建設産業委員会で瀬戸内市の耕作放棄地の再生事業について研修しました。瀬戸内市は、岡山市の西にある面積125㎢、人口3万6千人ほどの市です。耕作面積は2410haで約3/4は田園、放棄地面積は350haほどです。

「瀬戸内市生き生き農地再生事業」として、市民から再生して欲しい土地を募集して、それを一般財団法人の公社が無料で整備し、借りたい人に貸す事業を行っています。復旧作業はほとんど田んぼなので、再生して大規模化をはかることが可能になっています。これまでの5年間に再生した面積は13haほどです。

「定年帰農者等促進事業」は定年後に農業を開始する人がトラクターなど必要な機械を購入する際に1/2の補助、上限150万円まで補助する制度で年間300万円ほど利用されています。

江南市の耕作放棄地はほとんど畑で小規模なので、同じような再生事業は難しいと思いますが、瀬戸内市の公社のような組織を作ることができれば、再生の可能性がでてくるのではないかと思います。

（三輪記）



自治キャラバン

高すぎる 国保税、介護保険料の引き下げを

10月22日、県内各市町を回る自治体キャラバンが江南市を訪問。主に介護や生活保護など市の福祉施策について事前アンケートに基づいて懇談を行いました。

介護保険では基金保有額と繰越金が多く、月額1000円の介護保険料の値下げが可能なこと、次の第10期介護保険料を決める時には、基金を100%取り崩すべきと自治労連の方が迫りました。

国民健康保険税では、民主商工会の方が、国保税が高すぎ、払えば生活保護以下の生活になってやっていけない。一般会計からの繰り入れを増やして国保税を下げしてほしいと要望しましたが、「来年度は、赤字補填分の一般会計繰り入れは計画通りゼロにする」との非情な回答でした。

一般会計から繰り入れていた分を子育て支援金等として、子どもの均等割分に補助するなど具体策を示して要望しましたが、「計画通り進める」という回答だけでした。県や国に対し、国保に支援するよう市から求めて欲しいと要望しました。

生活保護では、扶養照会の件数が264件と多いにもかかわらず、照会しても金銭的援助が受けられた件数は0。市担当者の負担が大きいため、やめるべきとの意見が出されました。